

2018 桑名高校PTA地区懇談会のまとめ

陵成・光陵・成徳・正和グループ ①

(保護者)

- ・ 部活動と課題等との両立に苦勞している。またテスト期間中も1時間の部活動があり、多少の時間超過が散見されるので時間を守るように気をつけていただきたい。

(教師)

- ・ 部活動は、勉強ばかりに偏らず、仲間づくりや時間の使い方を養っていくよい機会と捉えている。学校とともに、保護者の方のサポートもお願いできればと考えている。

(保護者)

- ・ 塾に行かせるべきか悩んでいる。

(教師)

- ・ 学校の授業や課題をこなせば自ずと学力は向上できると考えている。学年が上がるにつれて塾に行く子の割合は増える傾向にある。学校が終わってからの塾の自習室を活用するなど勉強する場所づくりの一つとしてやっている子もいる。また、部活動と勉強を両立させ、塾に行かなくても国公立大学に合格した子もいる。時間のやりくりがうまくなった方が社会人としても重宝されるので、そのこと自体も大切だと考えている。

(保護者)

- ・ 小テストの追試が朝に行われ、子どもから直前に言われたり、弁当を準備するのも大変なので、放課後に実施してほしい。

(教師)

- ・ 放課後は、部活動の時間を優先したいため、朝に実施することが多いことにご理解をいただきたい。

(保護者)

- ・ 課題の出し方について、分量が多過ぎると感じる週もあるので、教科間のバランス調整をお願いしたい。

(教師)

- ・ できるかぎり要望にお答えできるよう考えていきたい。

(保護者)

- ・ 3年生の子どもがいるが、まだ進路を決めていないようで心配である。進路はいつまでに決める必要があるか教えてほしい。

(教師)

- ・ 早い子は、1年生から進路を決めて取り組んでいる子もいるが、将来何をやりたいか？それに向かってどこの大学を目指すのかをしっかりと考えること

が大切である。担任もサポートしているが、保護者の方もサポートをお願いしたい。また、5月末を目処に進路先と選考理由を生徒に書かせ、保護者の方に押印していただいたものを提出してもらう予定です。その後、校長及び教頭が分担して生徒一人ひとりの面談を予定している。

(保護者)

- ・部活動に熱心なので応援しているが、課題が多いために夜遅くまでやっている姿を見ていると心配なので、もう少し課題を減らすことができないか？

(教師)

- ・なるべく配慮するように取り組んでいるが、その時の状況に応じた量を出しているので、ご理解いただきたい。

陵成・光陵・成徳・正和グループ ②

- ・(1年生) 入学して、本当に勉強についていくのが大変そうである。課題の多さに驚いている。勉強の仕方が中学の仕方ではとても追いついていかないことはわかるが、どうすればいいのかわからない。
- ・(1年生) 通学・部活・課題でいっぱいに見える。自分のペースがまだまだつかめない。「学校は大変」と親子で痛感している状態。早く、桑高の生活リズムについていけるよう慣れてほしい。
- ・(2年生) 部活には入っていない。時間はあるから、その分勉強がやりきれているかという、そうではない。時間の使い方がもったいないと感じる。見ていると歯がゆいが、どうアドバイスをしてよいのかわからない。
- ・(3年生) 4月から塾に行き始めた。5月に部活を引退したら、受験モードに入りたいが、子どもが自分で気持ちを切り替えるしかないので、親としては生活面でのサポートと見守る姿勢を大切にしたい。
- ・(3年生) 部活を続けてきたが、引退した。まだまだ受験モードには入れておらず、家では勉強ができていない。

★先生より→課題を出して提出させ、とにかく基礎学力の底上げを図り、さらに上に伸ばしていってやりたい。勉強がやりきれないというのなら、とにかく課題をきっちりやりきることが効果的。そこでつまずいたら、必ず先生に質問すること。自分のつまずきを質問して理解することで確実に実力がつくはず。また、生活リズムは、断然夜型より朝方がよい。夜に、時間があるからとだらだらするより、朝の限られた時間の中で集中して勉強の方が効果的。実際の受験の時間に会わせて脳や身体が働くように持って行くことを目指させたい。学校での朝の自習の時間も効果的だと思う。自分の学力をいかに上げられるかに専念できるよう、親はサポートに回ってほしい。

部活は大変だが、しっかりと部活と勉強を両立させ、人間関係を構築することは、大学以降の就職活動やその後のその子の生活において大きく生きてくる。夜、だらだらと勉強しているだけでいいのかどうか。効率的な時間の使い方を考えさせることも、後々の社会生活で必要になる。受験には、体力も必要。

- ・(2年生) スマホがやめられない。夜でも、自分の部屋にスマホを持ち込んで、ゲームやメールがやめられない。

★他の保護者より→スマホは、部屋に持って行かないようにさせた方がよい。スマホにとられる時間は大きく、もったいない。きちんと子どもと話し合い、自分でリビングに置いていく等の約束事を決めた方がよい。それが、子ども自身が自分の学習スタイルを自分で考えることである。その意思がなくては、自分で勉強には集中することはできない。

光風、陽和、明正、多度、木曾岬、長島グループ ①

<出席者からの意見、悩み、相談事(主に1年生の保護者)>

- ・中学からの環境の変化が激しすぎて、戸惑っている。
- ・小テスト、課題が多く、ついていけないか不安。
- ・授業後の質問時間が少ない。
- ・桑高は国公立大を重視しているような印象を受けるが、私立大の対策はどうなっているのか。

<同席者からの参考意見、アドバイス(主に2, 3年生の保護者、先生)>

- ・子どもの気持ちに寄り添い、共感してあげる。
- ・小テスト、課題の多さは、1年生の間はかなりのストレスとプレッシャーであったみたいだが、2年生になるくらいから、だんだんと慣れてきた。
- ・課題は敢えて多く出す場合もある。(先生談)
- ・小テスト、課題への取り組む習慣をつけることが大切である。(先生談)
- ・継続する力をつけるための小テスト、課題でもある。(先生談)
- ・3年生になるとコツコツ勉強することが身につくので、1, 2年生は踏ん張り時。
- ・小テスト、課題は多いが、塾に行かなくても、親の安心感がある。
- ・質問時間については、慣れてくると生徒同士教え合うようになる。
- ・社会に出てから様々なことを同時にやらなくてはいけない時が来る。そういうことを学ぶためにも、勉強と部活は両立したほうが良い。
- ・早めに目標を設定したほうが良い。
- ・親ができることは、栄養のある食事と快適、十分な睡眠を用意することくらい。

光風、陽和、明正、多度、木曾岬、長島グループ ②

P) 校則について細かいところがわからない。

e x ゼッケンの付け方 ホックでつけるのか？

お菓子とか補食についてはどのあたりまでOKなのか？

T) 細かい規定はなく、生徒の自主性に任せて常識の範囲内で自由に任せている部分が大部分。

家庭にお願いしたいことは学校からの通信（連絡プリント）などに書いてあるので確認してください。

もしお子さんから提出がない場合もあると思うので、ゼッケンなどわからないことがあれば担任などに電話でいつでも問い合わせてください。

補食についても節度を守り、時間や場をわきまえてもらいたい。

将来社会人となるうえでも、自分でTPOを考えて行動できる人間に成長できる過程としてサポートさせていただきたいと考えている。

P) 学年主任のお話（PTA総会で学年主任の先生が学年の様子のお話）で早く学校に行っていいたいという話があったが、何時頃から学校で勉強できるのか？

T) 大体朝6時半ぐらいからは入れると思う。朝追試で教室を使っている時もあるかもしれないが、10分程度で終わる。

朝の6時半から7時半の1時間をセンターまで積み重ねていくとかなりの勉強量になる。メリハリをつける一つの方法である。

放課後も図書館横の自習室が3年生は夜7時まで、1、2年生は夜6時頃まで開放しているので、どんどん利用してほしい。

P) 入学して追試ばかり受けていることを心配している。

T) 科目によっては平均点があっても3分の2以上の生徒が追試を受けることもある。追試を受けることによって一つ一つの学習を確かなものになっていく。そうした小さな積み重ねが確かな学力につながっていくので、前向きに取り組んでほしい。

P) 塾に今は行っていないが、今後はどうすればいいか迷っている。

T) 1年生の約60%が塾に通っているようだ。

(スタディサポートの結果より)

学校のほうでは塾に通わなくても積極的に先生に質問するなどによって受験に十分対応できると思っている。

塾に行けば学校の課題の上に塾の宿題などさらに増える。部活とのバランスも考え、今のお子さんにあっているかどうか見極めるのも大切である。

- P) 受験に向けて問題集などをどうやって選別していけばいいか？
- T) 学校でも紹介したり、個別にも相談を受けている。沢山やればいいのかといえれば必ずしもそうでもないように思う。
むしろ数冊を徹底的にやりこむほうが力が付くと思う。
- P) 受験の手続きなどについて、親はどんなスタンスでいればいいか？
- T) 生徒の進学先に応じて柔軟に対応している。 節目節目で保護者会を行うが必要に応じて電話などで相談してください。
- P) 部活も勉強もすごく頑張っているが、頑張りすぎで心配である。その反面生活面がおろそかになりちょっと小言を言いたくなることもある。
どんなスタンスでいればいいか迷うことがある。
- T) 部活は同じ苦しい環境でうまくいかないことなど気楽に愚痴をこぼし合える場であったり、好きなことに打ち込めてストレス発散の場所になったりしている場合も多い。高校生活で目標設定して頑張っていく過程が大切である。結果につながらない場合もあるかもしれないが、その先での人生の岐路での力に必ずなると信じて見守ってあげてもいいのではないか。

(総括として先生より)

- ・まじめな生徒が多いので、課題の量やペースで悩んで心を痛めていることもあると思う。
- ・本人も含め家庭内だけで抱え込まずにお子様のちょっとした変化があればすぐ連絡してほしい。
- ・問題をすぐには解決できなくても、学校と家庭で問題を共有することが大切なので、何でも相談してほしい。それぞれの学年の職員室に電話をください。電話番号は学年通信などでお知らせしているので、お問い合わせください。

光風、陽和、明正、多度、木曾岬、長島グループ 3

- ① (保護者) 課題が多いと感じている
(教員) 教科間での調整を図っている。
課題を中心に取り組むことで、勉強のリズムができればと考えている。
- ② (保護者) 週末課題が出るのが通常は水曜日であるが、後日になることがある。週末のクラブ活動もあり計画を立てるが、木曜日・金曜日に課題が出されると計画通りにできない。
(教員) 教員・顧問と調整するよう伝える。
- ③ (保護者) 子どもが何でも全力で取り組むので行き詰まる。そんな時どのように声をかけていけばよいか分からない。

(教員) その子自身が担任の先生や先輩に話を聞いてもらったり相談したりして、その先のアドバイスをもらってはどうか。

いなべ・三四・その他グループ①

※子どもは桑高合格ラインのギリギリで入学できたと思う (賛同者多数)

→受験は努力したが勉強の習慣がなかった。課題等日々の学習ペースをようやくつかめてきたように思う

→最初は慣れないことも多く、心配なところがあったが、話を聞いたりして改善に向かっている。

→「キツイ」と家では愚痴もあるが、高校は楽しいと話している

※部活

→3年生はインターハイ終了までは部活を頑張りたい。引退後に1・2年生がさらにやる気を出す。

→部活がハードで帰宅も遅く、睡眠時間が減っている。

※再試はどこまであるのか

→再試で不合格だと、再々、再々々、、、と何段階を経て「居残り」という最終段階がある (先生より)

→ギリギリセーフよりは、再試で合格したほうが力がつくのではないか。

※学習

→保護者が桑高生だった頃に比べると、指導が手厚く先を見据えた授業をしている。

→学校の指導は信頼できる。

→子どもが自分で決めて志望したので本人に任せている。

→勉強は大変でも、学校生活はとても楽しかったので母校を勧めた。

→4STEPの答えがなく苦勞する。

⇒チャート式参考書と照らし合わせての学習が効果的。

⇒できる子・わかる子に教えてもらう。

※通学

時間がかかる生徒・・・電車で学習することもある。1時間以上かかるが、学校が楽しいから嫌ではない。

比較的短時間の生徒は朝、自宅で学習する。

※成績表

→良い時に出すが、そうでない時は出さない。中学ではそこその成績だったが、高校に入学して驚いた

先生より「志望校や目的をはっきりさせた子は頑張れる」
「修学旅行帰路、新幹線を降りたら3年生」
3年生保護者より「子どもは、今までの中で一番頑張っていると話している」

いなべ・三四・その他グループ ②

<学校生活について>

(2年保護者)

- ・2年生になって少し学校生活に慣れ、充実している様子が感じられる。

(卒業生保護者)

- ・通学距離の遠近は、個人差があるが、遠くても本人が上手にその時間を活かしてほしい。

<年頃からくる悩み>

(1年保護者)

- ・高校生になり、母親として息子の接し方に戸惑うことがある。

(2年保護者)

- ・親に言われても素直に聞けない年齢でもある。本人が考え、行動するのを信じるしかない。

<部活>

(1年保護者)

- ・桑高で部活をするという大きな目標を掲げ、桑高を目指し受験を乗り切った。今、その部活を頑張っている。

(1年保護者)

- ・部活と塾を両立してやっていけるか不安。

<学習>

(1年保護者)

- ・今は塾へ行っていないが、塾へ行った方がよいか迷っている。

(2年保護者)

- ・塾へは1年2学期から行き始めた。行っている子は多い。

(3年保護者)

- ・塾へ行ってはいるが、内容や進め方は本人次第なので、どれだけ力になっているかは親にはわからない。本人に任せるしかない。

(卒業生保護者)

- ・部活が終わってからの集中の仕方次第で、実力がついてくる。
勉強できる環境が大切なので、それは塾でも家でも本人に応じて決めればよい。

(2年保護者)

- ・本人が何を学びたいかが大切である。学びたいという思いがその後の力になると思う。

(1年保護者)

- ・課題の多さに驚いている。自分の時間が作れない様子。皆さん、どのようにやりくりして、どのように自分のペースを作っているのかなと思う。
- ・春休みから課題・予習・週末課題に追われ、毎日夜中2時過ぎまで起きている。

→ (3年保護者) 答えを見て、写して、時間の節約をしていることもあるようだ。

(卒業生保護者)

- ・人によって、予習タイプと復習タイプがあると思う。

(教師)

- ・高校は進度が小中学校の時に比べ、早い。次第に慣れて、予習方法にも軽重のつけ方等要領を得ていくと思う。

(教師)

- ・全部100%でやろうとすると大変。次第に要領を覚えていくのではないか。3年生になって誰もが言う言葉に「1・2年の暇なうちに勉強しておけばよかった。」という言葉がある。進路や目標が定まってくると、比重のかけ方が本人にとってわかってくると思う。

衛生看護科グループ

(専科2年)

- ・実習に行っておりレポートなど忙しくしている。あまり話す機会がないのでどうしているのかわからない。
→専攻科2年の実習では「成人」と「統合」があり、「成人」というのは、一人の患者さんを受け持ち、自分で考えながら看護にあたる。「統合」というのは、チームのリーダーとしてまとめる役を行う。
- ・実習先の病院へ推薦を出してもらえると聞いている。

→推薦を出せるが、必ずしも試験に合格できるわけではなく、1/4人くらいは落ちることもある。

- ・就職活動が6月から始まるが、こういった服装とするのがよいか。
→学校の制服で問題ない。外部講師によるビジネスマナーの講座もあるので、そこでアドバイスがある。

(3年)

- ・専攻科に進学した後の進路について、就職するか、専門学校などに進学するか迷っている。
→以前は専門学校などの合否結果を待ってくれる病院もあったが、最近ではあまりないので、就職か進学を早めに決めていただく必要がある。
- ・3年で准看の資格が取れるようなことがあるか。
→3年では准看の資格は取れません。

(1年)

- ・専攻科含めた5年間でこういったことが学べるのか？
助産師、保健師の資格を取るには？
→看護資格は取れるが、助産師や保健師の資格を取ることはできない。
大学へ編入したとしても、必ずしも取れるのではない。
大学内の成績上位者や合格者がコースに入ることができるが、実際には採用が厳しい。
大学編入以外でも、就職後社会人枠というのがある。

以 上